

『海紅』（山崎聰第一句集）より

山国の陽に霧の疵四十過ぐ  
友といて友の匂いの蜜柑むく  
ふぐりあたたまり山頂の墓に雪  
日当たりて憎悪のときの朴落葉  
ポケットに真珠と蜜柑別れがきて  
こころ融けはじむまいにち雪降って  
風花やうしろにもあたたかきもの  
風の昼干されて鱈に眼がふたつ  
スケーターワルツその夜の雪の山  
鱈干すや兄弟の墓同型に

松村五月 抄出